

# 日本都市社会学会ニュース

NO. 93 (2012. 11. 30)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3

愛知県立大学教育福祉学部 山本かほり研究室内

e-mail : usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp FAX : 0561-64-1107

(振替口座 : 00140-4-703976)

URL : <http://urbansocio.sakura.ne.jp>

## 第30回大会の報告

小山 雄一郎 (玉川大学)

日本都市社会学会第30回大会は、9月8日(土)・9日(日)にわたり、立教大学池袋キャンパスにて開催されました。参加者は137名(会員106名、非会員31名)にのぼり、近年では最大規模の大会となりました。

自由報告部会は2日間で4部会が開かれ、計17報告がおこなわれました。自身が参加した部会のみ印象ではありますが、狭義の都市社会学に収まらない多様な視点からの研究報告が多く見られたように思います。ただ一点、規定時間を大幅にオーバーする報告が散見されたのが気になりました。貴重な研究成果を余すところなく伝えたい気持ちは理解できますが、それが他の報告者の時間を削ることにもつながるのですから、事前準備にて時間配分を確認した上で、ルールはできる限り守っていただきたいものです。

昨年度からスタートしたテーマ報告部会については「都市とアート」という主題の下に2部会が設けられ、アートを媒介とした都市における様々な実践とその課題が報告されました。自身は1部会のみ参加しましたが、テーマや視点の多様性・斬新さに感心させられた反面、議論の前提となるアートの定義や位置づけにおいてももう少し共通性があればなおよかったのではないかと感じました。

初日の午後には「現代都市のリスクとグローバル化」と題したシンポジウムが開催され、グローバル化が進む中で都市とリスクの関係について検討がおこなわれました。都市間競争下における「成長戦略」と都市政治の実態、自然災害のグローバル・サプライチェーンへの影響とリスク分散のあり方、グローバルリスクに対応可能な海港都市と海洋社会学の可能性というように、ここでもまた社会学隣接分野も含めた多角的な視点からの刺激的な報告がなされ、討論者やフロアも交えた活発な議論が展開されました。個人的には、コンフリクトの不可視化とコンセンサスの強調を特徴とする「非政治化」という都市政治の動向が、様々な実証研究への応用可能性という点で特に興味深く思われました。

今年は本学会が設立されて30年という節目の年です。2日目の午後には30周年記念セッション「都市社会学—軌跡と展望」が開催されました。これまで都市社会学を牽引されてきた本学会の元会長および現会長の方々が登壇され、構造と変動、ネットワーク論、エスニシティ研究というそれぞれの視点から都市社会学の成果と課題を提示していただきました。質疑応答ではコミュニティや町内会・自治会といった概念の現代的な位置づけなどについて議論が交わされ、都市社会学の学問的アイデンティティを確認するよい機会となったように感じました。

(次ページに続く)

## 2013年度一般会員会費値上げのお知らせ(学生会費は据え置き)

2013年度(来年4月以降)から一般会員の年会費が6500円に値上げされることが、2012年度総会にて承認されました。なお、学生会員は4000円で据え置きです。財政状況の困難もさることながら、今後、国際交流の活性化、震災関係特別委員会の活動の充実、そして若手会員の研究支援などを、より積極的にこなしていきたいという趣旨です。たいへん心苦しい次第ですが、会員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、周到な準備の下に大会全般を円滑に運営し、参加者全員が有意義な時間を過ごせるための万全な環境を提供して下さった開催校の先生・院生・学生のみなさま、そして何よりも事務局のみなさまに、心より感謝申し上げます。

## 総会の記録

総会は、大会1日目の9月8日（土）、下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞（江上渉 常任理事）
2. 会長挨拶（谷富夫 会長）
3. 開催校挨拶（間々田孝夫 立教大学社会学部長）
4. 座長推挙（三浦典子会員を選出）
5. 報告

- (1) 2011 年度理事会報告

山本かほり事務局担当理事より、2011 年度の理事会に関する報告がありました。

- (2) 2011 年度企画委員会報告

浅川達人常任理事（企画委員会委員長）より、2011 年度の企画委員会活動について報告がありました。

- (3) 2011 年度編集委員会報告

江上渉編集委員会委員長より、2011 年度の編集委員会活動について報告がありました。

- (4) 国際交流委員会報告

稲月正国際交流委員会委員長より、韓国地域社会学会との協定、世界社会学会の準備状況について報告がありました。

- (5) 震災関連作業部会報告

浅川達人常任理事より、日本都市社会学会としての提言のまとめ、および三学会合同研究交流集会の報告が行われました。

- (6) 新入会員紹介

山本かほり事務局担当理事より、新入会員 14 名の紹介があり、全員拍手をもって承認されました。

6. 第 4 回若手奨励賞選考委員会報告および授与式

西村雄郎奨励賞選考委員会委員長より、受賞作品と選考結果、受賞理由に関する報告があり、赤枝尚樹「居住地における都市効果の再検討——非通念性の規程要因に関するマルチレベル分析」（『日本都市社会学会年報』28 号 2010 年）に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状が授与されました。

7. 議事

- (1) 会費の値上げについて

谷富夫会長より、財政状況の逼迫、および国際交流、震災関係の活動を充実させるという理由により、一般会員の年会費を 6,500 円に値上げ(学生会費は据え置き)することが提案され承認されました。なお、値上げは 2013 年度から行うことが確認されました。

- (2) 会員資格喪失に関する規定について

谷富夫会長より、会員資格喪失の滞納期間を、5 年から 3 年に短縮することが提案された、承認されました。

- (3) 終身会員制度の新設について

谷富夫会長より、終身会員制度の新設が提案され、承認されました。

- (4) 国際交流委員会関係の申し合わせの新設について

稲月正国際交流委員長より、国際交流委員会関係の申し合わせの新設が提案され、承認されました。

(5) 「日本都市社会学会震災関係特別委員会細則」新設について

浅川達人常任理事より、「日本都市社会学会震災関係特別委員会細則」の新設が提案され、承認されました。

(6) 顧問の指名および承認について

谷富夫会長より、森岡清志元会長を顧問に指名することが提案され、承認されました。

(7) 2011年度決算および監査報告

山本かほり理事より、2011年度決算の報告が行われ、承認されました。なお、承認に先立ち、武田尚子監事より、会計処理が適正になされ、2011年度決算に相違がない旨の監査報告が行われました。

(8) 2012年度予算

山本かほり理事より2012年度予算案が提案され、承認されました。

(9) 次年度（2013年度、第31回）大会について

谷富夫会長より、2013年度、第31回大会について、9月14、15日に熊本大学で実施することが提案され、承認されました。また、次年度開催校の徳野貞雄会員による挨拶が行われました。

8. その他

森岡会員より、倉沢進先生の退官記念論集『都市の社会的世界』を会員に配布することが報告されました。

松本会員より、20周年記念事業『都市社会学セレクション』全3巻の刊行に関する報告が行われました。

9. 閉会の辞（山本かほり事務局担当理事）

## 2011年度決算報告および2012年度予算

2011年度 決算報告(2011年4月1日～2012年3月31日)

取 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	20,000	名分	消耗品費	40,000	250	
学会費	1,150,000	1,197,000	一般170名, 学生37名	通信費	200,000	76,550	
広告収入	50,000	50,000	11年度分	ニュース印刷費	100,000	127,205	
雑収入	20,000	93,200	利息・複写権収入等	年報印刷費	500,000	502,000	第29号450部
年報販売	150,000	119,400		大会開催費	300,000	150,000	第29回大会(新潟大学)
				役員・委員会費	350,000	64,724	役員・委員旅費補助含む
				事務局費	300,000	98,599	事務局手当、アルバイト代含む
				学会賞費	15,000	15,424	
				企画委員会費	130,000	152,720	
				編集委員会事務局費	50,000	10,420	
				国際交流費	30,000	0	
繰越金	960,062	960,062		予備費	345,062		
計	2,360,062	2,439,662			2,360,062	1,197,892	

次年度繰越金 1,241,770

収 入			支 出		
項 目	予 算	備 考	項 目	予 算	備 考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,150,000		通信費	200,000	
広告収入	50,000	09年度分	ニュース印刷費	100,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	利息、複写権収入等	年報印刷費	500,000	第30号(2012年号)450部
年報販売	150,000		大会開催費	100,000	第31回大会
編集委員会返	21,270	11年度分残額	役員・委員会費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	300,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	15,000	
			企画委員会費	130,000	非会員旅費を含む
			編集委員会事務局費	50,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
			国際交流費	100,000	
			震災関係特別委員会	100,000	
			社会学系コンソーシアム会費	10,000	
			予備費	668,040	
繰越金	1,241,770				
計	2,663,040			2,663,040	

## 第 4 回若手奨励賞受賞作品の紹介と選考理由

日本都市社会学会賞選考委員会（第7回日本都市社会学会賞《磯村記念賞》）、第4回若手奨励賞選考委員会：任期2011年1月から2012年年次大会まで）は、2012年6月3日と7月29日の2回開催され、次の作品を第4回若手奨励賞受賞作品（論文の部）とすることを決定した。

### 1. 受賞作品

著書の部 該当なし

論文の部 赤枝尚樹 「居住地における都市効果の再検討——非通念性の規程要因に関するマルチレベル分析」『日本都市社会学会年報』28号、2010年

### 2. 受賞理由

赤枝尚樹氏の論文は、非常に完成度の高い優れた論文である。ワースやフィッシャーのアーバニズム理論の特徴である居住地の都市度の効果を、「非通念性」に焦点を絞って、全国サンプルのデータをもとに、マルチレベル分析によって、日本では初めて検討したものである。その結果、非通念性に対して、集成的水準における人口規模と移動性が、個人的水準における変数（年齢、教育年数）とほぼ同程度の効果をもっていることをあきらかにした。

本研究は、1)集成的水準と個人的水準を往復するアーバニズム理論の特質を的確に捉えている点、2)内外の先行研究を踏まえて、適切で周到な作業仮説と測定尺度を構成している点に加え、3)日本の全国サンプルデータによる都市効果の分析である点、そして4)分析手法として、過去10年間に急速に普及したマルチレベルモデルを用いて、居住地特性をマクロ変数として扱うことを可能にした点において、画期的であり、国際的にも通用する水準に達していると高く評価できる。

今後は、論者自身も予告しているように、ネットワーク変数なども導入して、都市度が非通念性を生み出すメカニズムの解明を期待したいが、それとともに、とくに非通念性に関して、フィッシャー（1975）の第6命題（「内容自由」命題）を踏まえ、じっさいに調査がなされる特定の時間的（歴史的）・空間的（場所的）な文脈に即して、特定のタイプの非通念性が生成される過程を明らかにするような分析を期待したい。それは、アーバニズムの一般理論を時間的・空間的文脈に再び埋め込むという理論的課題にも貢献することとなるであろう。

（日本都市社会学会賞選考委員長 西村雄郎）

## 国際交流委員会報告

韓国地域社会学会との交流協定期間（2年間）の満了にともない、本大会初日（9月8日）に本学会の谷富夫会長と韓国地域社会学会の朴濬植会長との間で交流協定更新の調印が行われ、引き続き2年間の交流が始まりました。

本交流協定に基づき今年度大会シンポジウム「現代都市のリスクとグローバル化」では金成國先生（釜山大学）より「帝国の領土から開かれた海域へ—持続可能な海港都市（sea-port-city）をめざして」と題して報告をいただきました。また、自由報告部会Ⅰでは張元皓先生（ソウル市立大学）・朴濬植先生（翰林大學）・金源東先生（江原大学）による報告“Bohemian Scenes in the Global Cities: A comparison of Seoul, Tokyo, and Chicago”も行われました。

なお、来年度は本学会から韓国地域社会学会に会員を派遣することになります。大会は2013年5月に「社会的企業，協同組合，持続可能な地域発展」をテーマに翰林（ハンリム）大学で開催の予定です。詳しい情報は次号のニュースでお知らせします。

そのほか、国際交流委員会では、世界社会学会議2014横浜大会に向けて、①リサーチ・コミッティ企画の立ち上げについての検討、②「世界へのメッセージ」のとりまとめを行っているところです。

（国際交流委員長 稲月正）

## 企画委員会報告

ここ数年間の自由報告部会におきまして、パワーポイントのみで、配布資料を用いない報告が増えてきました。前回の第30回大会の自由報告部会では、自由報告部会Ⅰ、Ⅱにおいて半分の報告が配布資料なしでした（なおⅢ、Ⅳについては、配布資料なしの報告はありませんでした）。この件につきまして、企画委員会で議論をいたしました。

国際学会などの潮流で、レジュメを配布しないという傾向があることは承知しておりますが、日本都市社会学会大会の自由報告部会は、他の学会大会に比べて報告時間が比較的長いこともあり、配布資料があった方がわかりやすいという感想を持つ会員もおります。また、報告終了後の研究交流を活発に行うためにも、配布資料があった方が便利であるという意見もありました。本件につきまして、上記のような議論があったことのみ、会員のみなさまにお伝えいたします。

なお、企画委員会では、来年度大会における「テーマ報告部会」「テーマ部会」「シンポジウム」の企画立案に向けて作業を進めています。11月現在では、各部会の企画運営を担当する委員が決定し、それぞれのグループで扱うテーマなどが検討されています。詳しいことは、次回学会ニュースおよび学会WEBサイトにてお知らせする予定です。

（常任理事・企画委員長 浅川達人）

## 編集委員会からのお知らせ

『日本都市社会学会年報』第31号（2013年9月発行予定）の編集作業が始まりました。特集は今年度大会の30周年記念セッション「都市社会学—軌跡と展望」に決まり、その他に自由投稿論文、書評などで構成されます。

また、『年報』の電子アーカイブ化ですが、ただいま第29号のアップロードを準備しており、年内には公開できる予定です（電子アーカイブには本学会のホームページからもアクセスできます）。

（常任理事・編集委員長 江上渉）

## 第30回大会プログラムの修正とお詫び

学会ニュース92号に掲載しました第30回大会のプログラムの自由報告タイトルに誤植がありました。報告者の方にはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。以下、正しいタイトルを掲載いたします。

### <自由報告部会II>

報告者：澤岡詩野 【誤】「都市高齢者の加齢のプロセスとJCT」 【正】「都市高齢者の加齢のプロセスとICT」

### <自由報告部会第IV部会>

報告者：三田知実 【誤】「医療デザインのグローバルな研究開発拠点としての都市細街路」 【正】「衣料デザインのグローバルな研究開発拠点としての都市細街路」

報告者：赤枝尚樹 【誤】「新しい都市度の確立にむけて——距離と移動時間に注目した都市度指標の提案」  
【正】「新しい都市度指標の確立に向けて——距離と移動時間に注目した都市度指標の提案」

## 震災関係特別委員会からのお知らせ

日本都市社会学会第30回大会総会におきまして、日本都市社会学会規約第7条に基づいて「日本都市社会学会震災関係特別委員会」を設置することが認められました。9月に行われました理事会におきまして以下の通り委員が決定し、現在活動を進めておりますので、ご報告いたします。

(委員長) 浅川達人, (委員) 内田龍史, 高木竜輔, 松菌祐子, 山口恵子, 山下祐介, 山本薫子, 渡戸一郎  
(震災関係特別委員会委員長 浅川達人)

## 会員の皆様へのお知らせ

### 1. 会費納入のお願い

第30回大会に参加されず2012年度の年会費を納入されていない会員、および過年度の年会費の納入がすすんでいない会員の方には、学会費納入用の振り込み用紙を本ニュースに同封いたしました。お早めに納入くださいますよう、お願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。なお、年会費は2012年度までは一般会員5000円、学生会員4000円です。会員区分に変更がありました場合は、振り込み用紙の通信覧にその旨ご記入ください。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、平成21年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名..... 郵貯銀行	預金種類..... 当座
金融機関コード... 9900	口座番号..... 0703976
店番..... 019	受取人名..... ニホントシシャカイガツカイ
店名(カナ)..... 〇一九(ゼロイチキュウ店)	

## 2. 第31回大会について

第31回大会は、2013年9月14日（土）・15日（日）に、熊本大学で開催されます。

## 3. 理事会報告

### (1)2011-2012年度第6回理事会報告

2011-2012年度第6回理事会は、9月7日（金）15時より立教大学にて開催されました。本理事会では、①第4回若手奨励賞受賞者について、②「外国人招聘の際の謝金等に関する申し合わせ」ならびに「国際交流協定に基づく会員の渡航費用の支出に関する申し合わせ」について、③入会および退会の承認について、④次回大会（第31回大会・2013年度）について、審議されました。

### (2)2012-2013年度第1回理事会報告

2012-2013年度第1回理事会は、11月10日（土）15時より名古屋市の日本特殊業市民会館特別会議室にて開催されました。本理事会では、①日本都市社会学会賞選考委員の委嘱について、②2012年度末会員資格喪失予定者について、③次回大会（第31回大会、於 熊本大学）について、④次々回大会（第32回大会）について、⑤次期事務局について、⑥入退会の承認について、審議されました。

（事務局担当理事 山本かほり）

## 「出版・刊行された著書等に関する調査」および

## 「第8回日本都市社会学会賞 受賞対象候補の推薦」に関するお願い

日本都市社会学会では、学会活動の参考とさせていただくために、会員の皆様が出版・刊行された著書等（論文は除く）に関する調査を隔年で行っております。また併せて、第8回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の受賞対象候補を会員の皆様に推薦していただきたく存じます（自薦・他薦は問いません）。

つきましては、①2011年1月から2012年12月末日までに刊行された著書等で、会員のみなさんの単著書・共著書・編著書にあたるもの、および②同期間に刊行された著書等で、第8回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の受賞対象候補としてふさわしいと考えるもの（自薦・他薦を問わない）を、「文献調査用紙」あるいは「推薦用紙」に記入し、次のいずれかの方法で学会事務局宛にお知らせください。①学会ホームページに記載されている「調査用紙」または「推薦用紙」（いずれもWord形式）をダウンロードして電子メールに添付する、②同封の用紙を郵送する、③同封の用紙をファックスにて送信する、といういずれかの方法でお知らせください。締め切りはいずれも2013年1月末日です。

（会長 谷富夫）

## 終身会員制度の新設についてのお知らせ

総会報告にもありますが、2012年度から「終身会員制度」をもうけることにいたしました。これは、永年本学会に貢献いただいた会員の方に、引き続き学会に残っていただき、後進の指導にあたっていただきたいという願いから発足したものです。本人の申請に基づき理事会にて承認という手続きをとります。**申請資格は、通算10年以上の会員歴を有する70歳以上の会員の方です。終身会費は1年分の会費です**（2012年度は5000円、2013年度から6500円）。詳細は学会ホームページで「日本都市社会学会終身会員規程」をご覧ください。また、該当の会員の方で申請希望の方は事務局までお知らせください。

## 会員資格喪失に関する規程の変更についてのお知らせ

総会記録にもありますが、今年度から会員資格喪失に関する規程が変更されました。これまで、年会費5年間の滞納で会員資格喪失でしたが、今年度から年会費3年間の滞納で会員資格を喪失します。スムーズな事務局運営のためにも年会費納入のご協力をお願いします。

## 会員異動

終身会員（2012年11月15日 理事会承認）  
山岸 健（慶応大学・大妻女子大学 名誉教授）

新入会員（2012年9月8日 理事会承認）  
＜中部・関西地区＞  
田恩伊（京都大学）

退会（2012年11月10日 理事会承認）  
＜海外＞  
李 珊（大連海事大学）

## 学会事務局より

- ◆第30回大会は、会員、非会員のみなさまの参加も多く、無事開催することができました。開催校の水上徹会員をはじめ立教大学関係者のみなさんに、事務局からあつく御礼申し上げます。
- ◆第30回大会に参加された会員の皆様には、「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。
- ◆第30回大会に参加されなかった会員の皆様で、2011年度までの会費納入者の皆様には『日本都市社会学会年報30号』と「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封いたしました。なお、2012年度年会費振込用の「振込用紙」も同封させていただいておりますので、お振込をよろしく願いいたします。
- ◆第30回大会に参加されなかった会員の皆様で、2010年度までの会費に未納分がある皆様には、「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封し、『日本都市社会学会年報30号』は同封しておりません。未納分をお振込いただき次第、お支払いいただいた年度の翌年発行の年報をお送りさせていただきますので、同封の「振込用紙」によりお振込をよろしく願いいたします。

（事務局担当理事 山本かほり）